

2021



助けあい 支えあいで 縁結び あいあいねっと通信

8月

暑中見舞い申し上げます。連日猛暑が続いておりますが、皆様お変わりないでしょうか。

新型コロナウィルス感染症の発生から1年半以上が経過し、日本でも少しずつワクチン接種が進んできました。新しい生活様式にも慣れ、連日、東京オリンピックでのアスリートの活躍を応援していると、新型コロナウィルスによる経済や医療など、深刻な問題など無いような錯覚に陥ってしまいます。しかし、あいあいねっとには、祝日が続く連休の間にも、食糧支援を求める連絡が入ってきます。

2020年の5月より、コロナ支援の一環として、個人の方への食料支援を始め、今までに200件を超える支援を行っています。当初は、コロナ禍で失業したり収入が減った方や母子家庭からの連絡が多くありましたが、支援を続けていくうちに、病気などで働くことができず収入が得られないなど、深刻な困窮状態にある方からの連絡も増えてきました。ひと月の提供件数も増加傾向にあります。今後も、寄り添った支援が行えるよう、引き続き、反貧困ネットワーク広島や社会福祉協議会と連携し、取り組んでいきたいと思います。

一方で、SDGsの浸透により、食品の提供量も増えています。2年前の2019年の年間取扱量29トンに対し、今年は半年で同量を取り扱っています。SDGsは、授業にも取り入れられており、中学校でSDGsをテーマにあいあいねっとの活動をお話ししました。また、中国新聞の『STUのStep SDGs』の

コーナーの取材で、STU48があいあいねっとに1日体験に来られました。持続可能な社会の実現へ向けて、私たちの考え方やライフスタイルを変えていく転換期を迎える中で、一人一人が真剣に取り組んでいかなければと改めて強く思います。



また、広島県内のフードバンク団体のネットワークを構築するために、オンラインにて情報交換と情報共有を行いました。第一回目は、6箇所のフードバンク団体が集まり、自己紹介と活動内容、抱えている課題について、意見交換を行いました。今まででは、個別に多量の食品提供がある場合や食品提供を希望する方の紹介など、必要時に連絡を取り合うことはありましたが、一堂に顔を合わせて、団体の活動方針や現状についてお話しする機会はありませんでした。どこの団体も、地域の抱える課題に取り組み、人々の困りごとを解決しようと奮闘されています。住民が笑顔で暮らせる地域を目指して、広島県内で協力して参りたいと思います。

★日々の活動は、facebookで公開中

食べ物は食べるためにある！ “もったいない” のない社会を創る！



フードバンク活動

食品ロス削減活動

健康づくり活動・まちづくり活動

私たちは、食品関連企業から、規格外・包装破損・印字不良などの理由で、食べ物としては品質にまったく問題がないにもかかわらず、商品として扱えなくなった食品（食品ロス）を無償提供していただき、それを食べることに困っている人々のもとに届けるとともに、地域の活性化に活かしています。

【編集・発行】

社会福祉法人 正仁会 あいあいねっと

■住所：広島市安佐北区可部3-9-21
■TEL：082-819-3023
■FAX：082-815-6666
■Email：aiainet@nagominato.jp
■web：http://www.aiainet.org/



社会福祉法人 正仁会



地域を元気に！

社会福祉法人正仁会 フードバンク事業 あいあいねっと代表 原田佳子

私が、栄養士としてスタートしたのは学校給食でした。あのころ、欠食児童はいませんでしたが、不足する栄養素を日々の食生活でどう補うかに重点を置いていました。その後、豊かな国に変貌し飽食という言葉が誕生し、エネルギーを抑える工夫や脂肪分を除いた献立作成に頭を悩ますようになります。社会の変遷、特に経済的なものが大きく反映したのです。

1945年8月第二次世界大戦に敗れたわが国は、工業化による高度経済成長により復旧復興を目指しました。第一次産業を支えていた地方の若者たちが、都会へ出て高度成長を支えました。その成長は、まことに自覚ましく世界中が目を見張るほどのものでした。しかし、担い手がいなくなった地方を中心とした農林水産業は、やがて衰退の一途をたどり、現在の食料自給率の低迷の要因となりました。さらに、高齢社会が輪をかけ、地方経済は落ち込み限界集落、崩壊集落という言葉も誕生するようになりました。地方に住んでいる者として、時に暗澹たる気持ちになることもあります。

現在、日本が抱える課題は、星の数ほどありますが、地方衰退は大きな課題の一つと言えるでしょう。「あいあいねっと」は、活動の一つを地域活性と位置づけ、「食べる」を中心に据え、食品ロスを有効活用し、地域の抱える課題に真摯に向き合い、住んでいて楽しい、生きていてよかったと人々が思えるよう日々奮闘しています。「あいあいねっと」は、今後も皆様のお力添えを頂きながら、皆様と共に元気な地域づくりにまい進して参ります。

お知らせ・・・・「休眠預金活用助成金の申請が採択されました！」・・・・

休眠預金活用助成金は、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年1月1日以降の取引より10年以上、その後取引のない預金等（休眠預金等）を、社会課題の解決や民間公益活動促進のために活用するものです。

あいあいねっとは、フードバンク活動だけでなく、食品ロス削減活動や地域のサロンとしての機能など、他のフードバンク活動よりも先進的だと、これまでの活動実績が認められ、今後の活動の展開にも期待できるとして採択されました。助成により、今よりも大型の冷凍冷蔵庫、食品を補完する倉庫などの設備、運搬用のトラックなどをいただけたこととなりました。コロナ禍での個人支援を開始し、食品を提供してくださる企業、食品を活用する団体ともに増えており、一度に提供される食品の量も増加しています。以前は、サロンスペースに食品を置くことはありませんでしたが、最近では、食品が置かれていることがほとんどです。いただいた食品はすぐに各活用団体へお渡しするようにしていますが、大きな段ボール箱がたくさん来ると、保管スペースがないのが現状です。コロナが収束し、イベントが開催できるようになった際、サロンスペースが活用できるように、また、食品の受け渡しがスムーズに行えるように、食品保管についても見直しをしていきたいと思います。助成していただいたものを大切に活用させていただき、食べることを通じて一人でも多くの人が安心して暮らせる社会を目指して活動していきたいと思います。



冷凍庫・冷蔵庫



米専用の保冷庫



倉庫の屋根



パートナーさんのご紹介

【株式会社イズミ】様は、今年の4月から、店頭でフードドライブのコーナーを設置し、地域の方に食品回収を呼びかけ、集まった商品をあいあいねっとへ送ってくださっています。毎回、いろいろな種類の食品が届くので、食品が充実し、とても役立っております。どんなものが届くだろうと、スタッフも楽しみにしています。ありがとうございます。

地域の方と一緒に取り組まれている素敵な活動をご紹介します。

店頭にて常設フードドライブを実施中！

株式会社イズミ SDGs 推進課 浦辺 敦子

(株)イズミは、イズミが運営するゆめマートにて、お客様のご家庭で余っている食品を有効に活用していただくため、本年4月よりフードドライブ活動を開始いたしました。きっかけは、ご家庭で余っている食品を持ち寄り、必要とされている方がたに寄付することで、ご家庭の「もったいない」を地域の「ありがとう」に変えていける活動があると知り、多くのお客様が来店される店舗の店頭が、フードドライブの場としてお役に立てると思ったからです。また、フードドライブ活動を通して、従業員も食品ロスへ関心を持つことができ、全体として食品ロス削減への意識が高まることを期待しています。

具体的な活動としましては、ゆめマートの各店舗に、食品を寄贈していただくBOXを置いています。そしてお客様にご家庭で余っている食品をBOXに入れていただき、ある程度まとまった段階であいあいねっと様に郵送しています。

あいあいねっと様には広島県下のゆめマート10店舗からの寄贈品をお届けしています。実際に開始してみると、多くのお客様から反応があり、開始2カ月半で約320kgの食品を寄贈をさせていただきました。

また寄贈回数は、多い店舗で13回を数えます。様々な方のご協力で集まった食品が、困っている方に届き、支援できることは、地域密着を心がけている当社としましても大変有意義なことと考えます。昨今、フードロス問題は、社会問題としても注目されていますし、生活者として最も身近な問題です。今後も当社はあいあいねっと様への食品の寄贈を通して、地域の皆さまのお役に立てるよう活動してまいります。



店頭のフードドライブコーナー
(八幡店の様子)



パートナー団体へ分配中♪
団体ごとに重量を記録します！



届いたカレー粉はカレーライスに、
お酢はきゅうりの酢の物に使われ、22人分
の昼食として、美味しくたべられました！！
(クロスロードさんの活用事例)



『SDGsへの貢献と“あいあいねっと”』

社会福祉法人 正仁会 業務執行理事 松林克典

最近、襟元に虹色の丸いカラーホールバッジ（SDGs バッジ）をつけて活動する政治家やビジネスマン、芸能人などを多く見かけるようになりました。



SDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）は、持続可能な地球環境を維持するために世界で2030年までに実現させようとしている国連の提唱した17のゴールであり、それぞれの目標を色分けしています。その具体的な目標は、1.貧困解消、2.飢餓ゼロ、3.健康と福祉、4.質の高い教育、5.ジェンダー平等、6.水とトイレ、7.クリーンエネルギー、8.働きがい・経済成長、9.産業・技術革新の基盤づくり、10.不平等解消、11.まちづくり、12.つくる・つかう責任、13.気候変動対策、14.海を守る、15.陸も守る、16.平和と公正、17.協働で目標達成であり、バッジはそれぞれのゴールの色を使ったものです。



世界経済フォーラム（2019年調査）によると、日本人のSDGsの概念周知度は49%と低調となっています。ここ数年、SDGsの概念習得については大学の学部の必須教科にも取り入れられたりしているため、若者の方が周知度は高く、高齢者ほど低迷しているのかも知れません。しかし、自然を大切にし、「もったいない」意識を持ち合わせているのは、高齢の方が多いと思われ、日本では日頃から自然にSDGsに向けて努力しているのではないかとも考えます。いずれにしても社会全体で地球環境を大切にしていく取組みや差別を無くす姿勢を創りあげていかなければなりません。SDGsバッジは、そのような意識の醸成に一役買っています。

私たち社会福祉法人は、自らの生業を全うするだけで福祉（3）や教育（4）、地域貢献（11,12）、食糧支援（1,2,17）、不平等解消と働きがいの創成（5,8,10）などに関与しています。加えて日々の生活に「ムリ・ムダ・ムラ」を無くすように心がければ、自ずとSDGsを実践していることになります。もちろん“あいあいねっと”もその1つです。“あいあいねっと”的活動は、互助を起点とした日本人の持ち合せている教育の原点であると考えます。SDGsの一部をドメインとして、しっかりと活動を継続させることができると、バッジを見ながら心に誓う次第です。

私たちの活動をご支援いただいている事業者様・団体様をご紹介します

- ◆旭食品株式会社広島支店◆有限会社アトラス・コーポレーション◆アルフレッサファーマ株式会社
- ◆アヲハタ株式会社◆株式会社イズミ◆株式会社エコールドフルール◆江崎グリコ株式会社
- ◆株式会社SKYコーポレーション◆株式会社エムズホーム◆株式会社M&K◆株式会社M&Cコラボレイション
- ◆おおたけ株式会社◆株式会社沖野建築設計◆有限会社オフィスシン◆キユーピー株式会社広島支店
 - ◆医療法人社団恵正会◆有限会社健康宅配ネット◆カルビー株式会社◆有限会社山菜木村
 - ◆ジャパンフード株式会社◆スタートライト工業株式会社◆生活協同組合ひろしま◆田邊農園株式会社
 - ◆ダイハツ広島販売株式会社◆株式会社ダイヤス食品◆チチヤス株式会社◆中国電力株式会社
- ◆中電環境テクノス株式会社◆株式会社トーホーフードサービス◆株式会社ナリコマエンタープライズ
- ◆有限会社ニシオカ◆広島アグリフードサービス株式会社◆広島駅弁当株式会社◆広島ガス株式会社
 - ◆公益財団法人広島市農林水産振興センター◆広島総合警備保障株式会社◆広島海苔株式会社
- ◆広島森永乳業株式会社◆株式会社フォーリーフ◆藤井医療器株式会社◆株式会社藤三◆株式会社vegeta
- ◆マルコメ株式会社◆マルサンアイ株式会社◆マックスバリュ西日本株式会社◆株式会社マルバヤシ
 - ◆ミック株式会社◆株式会社ミライト◆山崎製パン株式会社広島工場◆ゆかり屋本舗株式会社

みなさま、いつもありがとうございます！